

(様式3)

自己評価結果票(2Fユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり、ゆったり、共同生活。さりげないお膳立てと助け舟。いつも一期一会を大切に ・作りあげている。各フロアに掲示している ・事業所独自の理念をかがげ、サービスを行っている 		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を施設内の見えるところに掲示し、職員全員の共有認識に努めている ・理念に沿って取り組んでいる ・理念に基づき、行事活動を行っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・理念があることで、そのホームの目指すところがかかわかると思うので、これからはより一層念頭においてケアに取り組みたい ・理念の意味をしっかりと考え行動していきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のように施設内、フロアに掲示することで利用者、利用者家族への浸透を図っている。また利用開始時の契約時等に明確にこれを示す ・家族様には理解してもらっていると思う ・家族には運営会議等で伝えている。地域に対しては、苑だよりを活用している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の広報紙等に施設紹介をのせたり施設紹介をし、理解を図る ・地域の人々となるとまだ理解はしてもらえないのでは
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつはしている ・散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わしたりしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の通勤や生活の中での近隣住民とのあいさつを大切に、信頼関係を築けるよう努めている ・なかなか立ち寄ってもらうまでにはなっていないが、近所の方とコミュニケーションすることで近くにホームがあることを知ってもらえると思う
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会への利用参加を促すとともに行事への参加や共同実施を行っている ・以前に比べると参加している ・地域の自治会や地域のごみ拾いに利用者とともに参加している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校や保育園等との交流をもつ機会を作りたい ・今後も極力参加し、地域の中に溶け込めたらと思う ・地域活動に積極的に参加していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括センターを中心に住民の高齢者福祉の相談窓口として、機能し、また独居老人等への支援や民生委員等との連携を深め、ニーズがある場合、積極的に情報の提供や援助に努めている ・今はできていると思う ・運営会議を開き、認知症について話し合いをしたりしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括や民生委員を交えた地域での施設の役割の確認 ・猪名寺老人会ではあるかもしれないが、話し合いはできない。地域の人だけでなくホームにも役立つ事がないか考えたい ・地域の人にできるだけ多くの人に認知症への理解を深めてもらう活動をする
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価の意義を理解し、評価をふまえて改善点がある際は、改善できるよう取り組んでいる ・自己評価も大切だが、他者からも意見を取り入れて話し合いができるようにしようとしている ・会議を行い、サービスの向上に努めている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・評価をふまえた、施設の改善 ・自己だけでなく、他者からの評価を大切に、改善できるところはしたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・会議での意見や苦情等を記録、職員間で共有し、よりよサービスにつなげていけるよう検討している ・以前に比べると意見はもらえるが、本音が話しづかいかもしれない(最初に家族だけで話す時間は設けていますが) ・会議の中で指摘を受けたことは、話し合いをすちえ、改善していつている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・来られる家族に対しても定期的に意見を聞いた方がいいかもしれない。会場作りの雰囲気も考えなくてはと思う
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・よくわからない ・管理者が行っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、地域包括支援センターとの連携、を強め、地域において、グループホームの役割や情報の開示を行う ・職員にも浸透できるように話してもらえたら。他者から見た目を大切にできるようにしたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な方には制度をすすめている ・実際に使用している人がいる 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護事業や成年後見制度への理解を深めるため、勉強会を開いたり、職員、個々が必要な際に申込者に説明や関係社会資源への調整が行えるように努めたい ・定期的に学べたらと思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会ではそういったテーマを選びました ・虐待防止のため、会議で話し合いを行っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが虐待防止への意識を持ち、虐待があった際は、ただちに報告するようにする。虐待への額集会を持ち、暴力だけでなく、言語的、金銭的、ネグレクト等の虐待について考える場をもち意識を高めたい ・利用者から職員への暴力などもどこに原因あるのか探らなくてはいけない。職員が利用者へ虐待はあってはいけませんが ・職員のメンタルケアの実施

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な説明や契約書、重要事項説明書により、理解をはかり、同意の上で契約、解約を行っている ・説明はできていると思います ・契約書を全文読み、説明し、家族に納得が行かない場合は質問を聞き、理解してもらっている 	○ ・アセスメント技術、インテーク技術の習得
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情ポストは設置しています ・意見箱を設置している 	○ <ul style="list-style-type: none"> ・不満や苦情を表せる場や利用者が気軽に意見等を書きこめるようなものを作成していきたい。外部者に表せる機会を設けたい ・施設に対するアンケートなどをするようにしたり
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、利用者家族への様子や食事、排泄入浴等の情報を送っている ・毎月、報告書にて報告。それ以外にも何かあれば連絡するようにしています ・活動報告、食事量、バイタルなど一ヶ月に一度、書面にて、家族に報告している。定期的に電話連絡を行っている 	○ ・家族と密に連絡が取れるようにしていきたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱を設置し、家族からの同意や苦情を表せるようにしている。アンケートの実施 ・苦情ポストや会議などで何かあれば報告している ・二ヶ月に一度、運営会議を行い、家族の意見を聞いている 	○ ・家族の意見を会議の場だけでなく、来苑されたときにもじっくりと話を聞く
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・機会を設けるといより、職員がいつ尋ねても大丈夫な環境であると思います ・毎月三回、会議を行っている 	○ <ul style="list-style-type: none"> ・外部者実施アンケート ・毎月三回の会議とユニット会議も必要
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・何かあれば説明して出勤できるようにはしています ・主任が勤務調整を行っている 	○ ・職員が運営者、管理者へ意見できるようなアンケートや意見箱の設置等を行い、働きやすい職場、働く意欲の向上につなげているような取り組みをしてほしい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・離職者が多い際に会議で離職につながらないようにするための検討会議を行った。各職員になぜ離職につながってしまうのか、アンケートを実施した ・利用者の方も顔を覚えてくれる方もいるくらい同じような職員でできてると思う ・一人職員が休んでも代替りの職員が対応している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・担当フロアの利用者の把握に努め、家族連絡時や訪問時には、家族の要望やニーズに対応していけるようにしたい。利用者家族状況の把握にも努める定期的な職場環境の見直しや話あい ・離職も状況によってですが、自分たちで改善できるところはしていけるよう話し合いを持ったりしているの、それを反映させたい ・利用者への負担はない、人手不足のため職員の負担はある
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新職員へのスキルアップを目的とした記録、利用者への援助実施記録の徹底を図り、主任によりチェック、指導、育成を行っている。また職員研修を義務づけており、就業規則にもこれを明記している ・研修などは参加率が高くなっている ・積極的に研修に行かせてもらっている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プリセプターが育っていく研修に参加していきたい
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場を持つ機会が少ない ・できていない ・研修に行き、他の施設の方と交流をしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループホームの見学や合同勉強会の開催を行いたい ・同業者との交流もあればよい。他施設の見学などもしてみたい ・他施設に見学に行ったりして、よいところを学んで行きたい
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休みが増えた ・休憩場所がない 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の休みを聞いてくれるので、ストレスはかなり減っていると思う。ストレスとうまく付き合うことが大切ではないか ・少しでも休憩できる場所があればいい
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・把握はできている ・研修に行き、学んだことを活かす努力をしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心を持ち続けることは難しいです。目標を立てて、みんなでそこに近づけるようにしていけば自然と向上心が生まれると思う ・一月の業務の中で目標を持ち、活動していきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期アセスメントの実施、担当ケアマネとの連携 ・利用者のサインを見逃さないよう注意している ・一人ひとりの利用者に声掛けをして、会話からいろんな状況を聞いている 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトアウトしながらの信頼関係の構築 ・一人ひとりにゆっくりと時間をかけて話をしていきたい
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期面接、アセスメント ・特に入居したては不安が多いと思うので、何かあれば言ってもらよう伝えている ・来苑時に不安なことや行ってほしいことなどを聞きだしている 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント技術、インテーク技術の勉強会 ・密に連絡を取っていき、困っていることなどを聞きたい
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上司や管理者、他の職員にも意見を求め対応できるようにしている ・利用者の状態を見て、援助を考え行っている 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の社会資源の利用の検討と、ケアマネとの利用者の入所等の適性かどうかの話し合い
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なじんでもらえるよう、環境を整えるようにはしている。家族や本人の希望を優先して入居している ・本人の様子と家族の要望を聞き、サービスをしている 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験利用の実施 ・利用者が何を求めているかを把握して、サービスを行って行きたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や日常生活の中で、利用者から学ぶ場を設けて、業務の中で利用者を手伝って頂けることはしてもらっている。またその際の利用者への賞賛や感謝などをとおして支えあう関係を築けるようにしている。また利用者の過去の経験や生活歴からうかがえる技術や知識を最大限に活用する ・利用者から学ぶことはたくさんある。日々、同じことなどないし、人と人の関わりは本当に難しいです ・状況にあわせ、利用者の様子を見ている 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とゆっくりとだんらんやテレビ観賞をするなど、楽しみの共有をする時間を図る

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への参加を促し、利用者との時間を持つ機会を提供している。原則、通院は家族が同行するものとしている(川尻) ・家族さんには利用者の全てを伝えて、色々な思いを共有できるように努めている ・家族の要望を聞き入れ、利用者を支えている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の参加の促しやそれを可能にするにはどうすべきかの検討 ・利用者のことを支えているよう交流を深めていきたい。交流会もしているが、来られない方に対するサポートも必要 ・利用者にとっては職員は第二の家族なので、家族の不安などを援助していきたい
29	利用者との関係のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への月に1回、利用者の様子や健康状態、訴えを郵送し、利用者の把握をしてもらうとともに、利用者との関係を結ぶよう努めている ・どのような関係であったか、家族も話してくれるので、職員も理解できている ・利用者を施設に任せきりではなく家族の協力ももらっている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の想いやニーズの代弁を図れるよう細やかなコミュニケーションをとる ・家族の協力が得られないところがあるので、協力してもらえよう努力が必要
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の友人の面会の受け入れや、生活歴から伺える思い出の場所への外出等行う ・なじみの関係があるなら、本人や家族と相談して継続できるようにしている ・思い出の場所に行ったりしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・外出を多くしていきたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・時に課題提供を行い、利用者間の会話をさりげなく促す。利用者間の関係が悪化した場合は、利用者の想いを受容、傾聴するとともに、相手の理解を得られるよう努める ・どうしても合う、合わないなどのときは居室を変更し、様子を見てから行ったり、その人が合うフロアを考えている ・利用者の中に入り、仲をとりもっている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立する利用者となるべる皆が仲良く過ごしたい
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス契約の終了後も積極的に関わりをもつようにする(行事への参加の促し等)退所後に利用が見込まれる際、介護サービス事業所やケアマネへの情報提供や連携 ・断ち切ることはない ・サービスを利用されていた方がなくなったときの対応をする 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・担当ケアマネへの定期確認を行う ・お通夜、葬式に参加している

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画作成時に1人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞く。また生活の中での本人の生活スタイルを観察しながら、スタイルにあった形で生活を送れるように援助している ・各担当だけでなく情報を集めて、その方がどうすればその人らしく生活できるかを検討している ・言葉や表情から訴えていることを察知する 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に聞いたり、本人に確かめる ・日常的に観察が必要
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時のアセスメントや担当ケアマネより情報の受け取り等から把握し、ファイルに管理している。諸君はこれにより、生活歴の把握を行っている。また必要ならば、家族より随時聞き取りを行う ・入所前に書類で提出してもらっている。生活歴などは家族でもしらないことがあり、本人から聞くこともある ・利用者の昔話や家族からの生活歴の記録を見て、把握して 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活歴のより深い理解、初期アセスメント技術の習得 ・利用者のことをすべては把握しきれていないので、努力が必要である
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン作成、評価の際、会議を行っており、職員全員の支店から利用者の日々の過ごし方やADLをみつけ、意見を出し合う中で、総合的に把握を行っている ・個人日誌などに記入。気になることは口頭でも伝える ・日々の生活の中で、行動や動作、発音、バイタルの把握に努めている 	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の関わりの中で利用者の要望を聞いた入り、日々の利用者の生活から読み取れるニーズ等を会議において出しあい、反映させている ・カンファレンスなどで話し合い、計画している ・チームで会議をし、話し合い、ケアプランを作成する 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニットごとに利用者のニーズ表や気づきファイルを作り、家族とともに検討する機会を作る ・今後はチームワークを強め、色々な情報からその人に合ったケアプランを作成したい ・職員の情報の共有が必要である
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・期間が終了するまでに介護計画の遂行状況効果などを会議において評価するとともに、新たなニーズや家族、利用者からの要望がある際は、反映させている ・その方の状況に応じて行っている ・見直しより現状維持が多いです 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の少しの変化を見逃がさず、職員間で常に話し合いをする

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にファイルを用意し、日々の様子や身体、精神状況を記録している。職員は日々、このファイルと確認し、情報、利用者の心身状況の把握に努め介護計画見直しに活かしている ・自分だけの思いでケアするとつまずくこともあるので、他者の状況などを参考にして、ケアに取り組んでいる ・記録や情報の共有をしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・介護形式の改善を検討し、よりよい警護記録方法を検討する ・よりくわしく記録に残して、その方の情報をたくさん共有して、ケアに取り組みたい ・詳しく日誌や記録を記入する
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面での連携を強め、往診により、利用者の健康管理や疾病への対応を図っている ・心身的あるいは様々な事情でここにいれなくなることもあるので、別の場所を提供できるよう支援するようにしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の要望を聞く中で、柔軟性をもたせられることは改善する
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人に地域包括支援センターがあり、連携を取りながら、地域の協働につとめている。必要に応じ、民生委員との連絡も可能 ・消防訓練を行ったり、ボランティアで編み物教室に参加させてもらえたりしている ・編み物教室に参加している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括との合同での会議や地域把握への勉強会。地域包括のケアマネや社会福祉との関係の強化 ・ボランティアの方に色々なことを教えてもらえる機会がもっと増えたらと思う ・編み物のみでなく、いろんなボランティアさんによる教室に参加していただきたい
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・退所時、契約終了時、ひきつぎ担当ケアマネや今後利用者が見込まれる介護サービスとの連携や情報の提供を行っている ・必要性があれば支援できている ・老人会に参加している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の居宅支援事業所との交流や地域での合同の勉強会への参加 ・多くの地域活動に参加していただきたい
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人に包括支援センターがあり、権利擁護サービスや成年後見制度が必要な場合は、相談に応じられる体制となっている ・必要性のある方は、家族や担当を交えて、支援センターと協働できている ・運営会議の時にケアマネが参加している 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に応じたかかりつけ医の利用を認めている。原則は家族による通院介助とし、契約時に合意を得ている ・往診左記の提供や、家族の希望などを取り入れて医療面サポートをしている ・家族の希望の協力医や訪問診察に来てもらったりしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面のサポートを強化し、不安がなくせるようにしたい
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症専門医としての医師の助言を受けたり、地域のそれに助言や相談を出来る状況にはない。かかりつけ医により、認知症の薬や助言をもらっていることはある ・認知症の専門医とは連携できていない ・行っていない 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の専門医との関係の確保を図りたい。医師による専門的指摘(薬や対応等)
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人内の特養の看護師に必要に応じて医療面の助言や指示をもらっている ・往診左記の方に聞いたりしている。何かあれば併設の特養の看護師に相談している ・協力医の看護師や特養の看護師に緊急時は相談している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか気軽には行かないが、一人でも全員のことを把握してくれる人がいると安心である
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の方と今後について話し合ったり、家族とも利用者の様子を知れるよう協力はしている ・回復状況を家族に連絡をとり、退院後の生活支援をする 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・病院関係者との連絡調整や連携体制の強化。MSWとの情報交換をこまめにとる ・退院後のケアを職員間で話し合い、援助方法を考える
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の方には受け入れにくい問題かもしれないが、策をとることは状況に応じている ・家族の意向を聞き、医師の診断に基づき方針を共有している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の際の対応や連携体制作りをする。死、ターミナルケアについての家族との勉強会をする ・終末に関して、家族にも確認を取っておくひつようがある ・ターミナルケアについて考える
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・医療行為が必要になった場合等の病院への情報提供 ・できる限りのことはしてもらいたいのので、家族にも理解はしれもらえていると思う ・医療機関と連絡をとり、緊急時に備え、家族に報告する 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期を迎えた際の家族、本人との話し合いや連携体制作り ・今後、増えていくであろう重度化のためにも早い段階からどうすべきか話し合うのは必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・他事業所へ移られた場合の情報の提供、新たなケアプラン作成時への協力をしている ・情報提供を行い、その方の生活が少しでもダメージを減らせるようにする ・生活状態をかえないようにしている。今までの生活情報を集める	○	・地域の居宅支援事業者との連携体制の強化や社会資源の把握 ・家族や前におられた施設などから情報を集める
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・言葉かけにややみだれがみられることがある。契約の際、個人情報の保護をお約束するとともに守秘義務についても確認をしている ・気をつけているつもりだが、さりげなく声をかけられるなどできないこともある ・会議で言葉遣いなどの注意を行っている	○	・トイレ誘導への声掛け等、大きな声で言わず、目立たない形での誘導を心がける ・今後はより一層個人のことを考え、声掛け、行動にも注意していきたい ・利用者にとって恥ずかしいことなどを見極めて、発言したり、行動をする
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・買い物や食べ物、飲み物の決定をお願いしたり、日々の援助の声掛けの中で自己決定を促すような声掛けを心がけている ・決めれる方に関しては、できるだけ決めれるような援助を心がけてはいますが、自信ないこともある ・声掛けや言葉、表情をみて、利用者自身で決めてもらっている	○	・意図とした感情表出させるようなコミュニケーション技術の習得、研修への参加 ・利用者が自分で決めれるように話しかけに工夫をする
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々の生活の観察や生活暦からうかがえてる利用者の日課等を大切に、個人のペースで生活をしていただいている ・ペースはもちろんであるが、支援を必要な方にとって本人の希望に合わせられるよう心がけている ・一人ひとりの利用者のペースに合わせている	○	・定期的に利用者の過ごし方や希望にそった生活をできてるかを話し合い検討する ・利用者の日々の過ごし方を観察し、その人らしい生活が遅れているかを確認する
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・着替えは本人の意向で決めている。自己決定が難しい方には「これでいいですか」等の声掛けをし、自己の決定を促すようにしている ・本人が望む店がない場合は、こちらで決めてできるようにしている ・化粧される方はしてもらっている	○	・洋服の買い物への外出の実施をする ・美容側への理解、また利用者にとっても負担の少ない方法で提供していきたい ・洋服など着たい服をご自分で選んでもらうようにする

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 調理可能な方は手伝ってもらったり、配膳、下膳、片付け等も一緒にいただいている できる方にはしてもらっている。外食へ行って好きなものを食べることもある 利用者と一緒に食事を作ったり片付けを行っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にみんなが参加できるクッキング等を検討し、実施する 食事は本当に楽しみの一つなので、好みなどを大切にしていきたい 皆で作れる料理を定期的に行うようにする
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの嗜好物を理解し、メニューの中に定期的に取り入れている。お酒は健康上の問題からこちらで管理し、決められた量を本人に同意の上、飲んでもらっている 希望される場合は提供している 利用者が好まれる献立にしている 	○	<ul style="list-style-type: none"> 時々できるものが少なくなることがあるので、常時できるようにしていきたい 春日の家では禁煙である。タバコ好きの方はどうするかが課題
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 排泄パターンを把握し、誘導を行っている。定時に加え、表情や行動等のサインを読み取り、その都度トイレ誘導している 日中や夜間など状況に応じて下着を交換したり、排泄リズムをつかんで誘導するようにしている 定時のトイレ誘導や排泄チェックを行っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> 尿もれ等の多い利用者によりよい吸収力のあるパッドの購入の検討。細かい利用者の排泄パターンの把握 排泄パターンを細かく把握して、便秘を防ぐ
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入浴時間や日を決めず、いつでも入れるようにしており、本人の希望時間に入ってもらっている。拒否の強い方には無理強いせず、対応の工夫やチームプレイの中で入浴を促している 希望できる方にはその方の入りやすい時間帯を。希望できない方にはタイミングを見て入浴してもらっている 好きな時間帯に入浴してもらっている 	○	<ul style="list-style-type: none"> スーパー銭湯等へ行くなど入浴の楽しみを増やす 外出で銭湯に行ってもらおう
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> なるべく居室より出てきてもらえるよう声かけをしたり、離床を促し、コミュニケーションをとる中で日中の生活を活性化してもらい、生活リズムへと整えるよう努めている 自ら休みたい方には休んでもらっている。こちらが休んだほうが良いと思えば居室へ誘導等している 昼夜逆転がないように一人ひとりの生活に合わせて支援している 	○	<ul style="list-style-type: none"> 夕にかけて副交感神経を刺激するようなレクリエーションや雰囲気を作る 日中、レクリエーションや散歩など活動してもらおう
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 生活歴から伺える趣味を活かした行事参加や外出や買い物へ同行している。また日々の生活の中で洗濯物たたみや調理等の役割を提供している その人に合わせたものを提供できるよう普段の生活から探っている 一人ひとりにあった仕事してもらっている 	○	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみごとや気晴らしなど一人ひとりに合わせたものをゆくり提供していきたい 個々に合わせて仕事行ってもらおう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族協力のもと本人に小額のお金を管理してもらっている利用者もいる ・家族などと相談し、本人の状況に応じて所持してもらっている ・一部の利用者はお金を所持しているが、ほとんどの利用者は家族が事務所に預けている	○	・可能な方には買い物時の支払い等を行ってもらい見守りを行っていきちあい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・レジャー施設やアミューズメントパーク等への外出を積極的に行っている ・できるだけ出かけられるようにはしている ・買い物や散歩などを行っている	○	・本人のペースに合わせて外出を支援したい ・散歩に行けない利用者があるので、外出していく
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・外出に行っているば、家族参加にいたっていないケースが多い ・外出の機会は作れるよう計画している ・利用者が行ってみたいと思うところを探して、楽しんでもらう場所へ出かけている	○	・家族への声掛けを行う。家族参加を可能にするためにはどうすればいいか ・場所も制限されがちなので、今後は家族とも出かけられるようにしたい ・顔z区も一緒に参加できる企画を行っていく
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状を出す支援を欠かさず行い、利用者の希望に応じて、日常の電話や手紙を出せるよう支援している ・希望があればしている ・小銭を持っている利用者は電話をかけに行っている	○	・自分でできることは行ってもらう
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・利用者の友人や知人が来られた時には、お茶を出し、一緒にお茶をしていただくなど気兼ねなく過ごしてもらえるようにしている ・他の方もいるので、配慮しながら過ごせてよかったと思えるよう配慮している ・和室やソファのところで気軽に過ごしてもらっている	○	・スペース作りの検討。フロアの装飾 ・しきりがないので、すこしゆっくりできない感じがする
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・重要事項、契約書に身体拘束禁止を明記しており、職員一人ひとりが把握し、それに努めている ・取り組んでいる ・会議でどのような行為が拘束になるか話し合いをしている	○	・身体拘束などの研修の参加 ・会議等で深めて行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関を出ると同法人の送迎者の出入りがあったり道路へすぐ面しているため、鍵を玄関にかけざる得ない状況となっている ・鍵は自動ドアですが、中からは開けられない ・鍵をかけている階がある。ベランダから外に出られた利用者がいたため、居室に鍵をかけている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1階の見守り職員の配置をし、鍵のない状況でも安全を確保したい ・ ; ベランダの鍵は安全のため閉め、居室の鍵をかけないようにする
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、職員は業務にあたりながら、さりげなく、利用者の状況の把握につとめている。夜間は1時間に1回の見回りを行っている ・所在や様子は常に気にしています。夜でも3ユニットを1人でみることがあるので、カメラは外したほうがいいけど外せない ・日中は職員が見守りをしている。夜間は定時に巡回を行っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りだけでなく、机や椅子、物置の位置にも配慮する
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況を照らしながら、嚴重に管理すべきものは管理している ・状況に応じて、変えていけないところは変えているが、最初から何もないということはない ・危険な物品は職員で預かり、利用者必要な物品は渡している 		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。また、今後の予防対策について検討し、予防につとめている ・わかっていてもそのときはパニックになるかもしれない。知識はあると思う ・ヒヤリハットを書き、事故防止に取り組んでいる 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事故対策への研修への参加や勉強を行う ・今一度、確認の必要がある ・ヒヤリハットの内容を職員間で話し合いをする
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・急変時、救急対応のマニュアルを各フロアに掲示して救急時に備えている。人工呼吸器用マスクも各フロアに常備している ・救命講習を受講したりしている ・救命の研修を受講している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に救急対応のシュミレーション勉強会を行い救急への対応技術を高める ・定期的には行っていないので、みんなができるようにしておく必要がある ・救命救急のセットの場所確認
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、防災訓練を行い、災害時の対策に取り組んでいる ・火災も訓練を行っており、災害時は近隣の方が応援に来てくれる仕組みになっている ・年に数回、避難訓練を行っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所や方法を事前にしっかり把握しておく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・何かあれば家族に話している ・具体的には話し合いをしていない	○	・一人ひとりの起こりうるリスクについて、家族への説明、同意を得る。本人の抑圧のない生活には、拘束等のない生活の必要性があることやそのためにはリスクをとることも必要との説明や妥協性の理解を図る ・家族との話し合いが必要
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日々、バイタルチェックを行うとともに表情や日々の様子観察から利用者の変化を見逃さないよう努めている ・異変があれば、様子観察か救急対応か判断できるようになっている。他の職員にも申し送りしている ・普段の状況と違う場合は、バイタルをはかり、確認し、家族に連絡して、受診してもらっている	○	・バイタルプラフの作成やパソコンソフトの利用 ・家族や関連医にすぐに連絡が取れるようにする
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬ファイルを作成や、ケース記録に処方箋のコピーを整理し職員が無誤できるようになっている ・薬のファイルや日誌に処方箋など添付している ・日誌に処方箋をはさみ、だれでも見れ、確認できる状態になっている。服薬確認も行っている	○	・薬についての個々の学習や把握 ・薬を渡して飲んでもらうのを最後まで確認する
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・排泄チェック表を作成しており、自身で排便状況を把握できない方の排便状況を把握し、便秘の際は、トレイにて排便を促したり、処方された便秘薬を服用してもらっている ・水分はこまめにとってもらえるよう色々な飲み物を出している。散歩したり動いてもらるようにしている ・排便確認が取れない場合、便秘薬を服用するときは、家族、医師に相談して、服薬する	○	・体操や便秘予防対策の検討をして、薬に他世なら便秘予防の実践 ・どうしても場合は薬に頼ることになるが、その薬も状況に応じて、医療機関に相談しながら調節している ・利用者の排泄チェックをする
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・自身で口腔清潔が保持できない方の介助を行ったり、見守りを行っている。義歯の洗浄も同時に行っている ・歯科受診とあわせて、清潔保持に努めている ・一日の中で就寝前にしか口腔ケアを行っていない	○	・毎食後の口腔ケアの実施 ・毎食後の口腔ケア必要
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂取状況、水分量を一人ひとり記録し、適切な栄養、水分量を確保してもらっているようにしている。ご飯食、パン食の選択メニューとなっている ・水分量はチェックしている。食品に関してはその方に応じて、栄養食品を提供したりしている ・調理記録や水分補給チェック表を気にゅうして、量を把握している	○	・水分量コップがバラバラの容器なので統一できたらよい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症マニュアルを作成し、職員が目を通すことができるようフロアに置いており、職員全員が予防に努めていけるようにしている ・マニュアルある。外から来る人は手洗いうがいを励行している ・インフルエンザの予防接種、手洗いうがい、消毒をする	○	・感染症に対する勉強会の実施。トイレ、施設物の消毒の強化、使用毎の消毒の徹底 ・手洗い、うがいの徹底
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日、キッチンハイター消毒を行っている。食材は冷蔵庫へ保管している ・消毒、除菌に努めている。食材は前日もしくは当日に配達してもらう ・ふきんを毎日消毒、食器は乾燥機を使用している。食材は前日に運んでもらっている	○	・テーブル、キッチン使用、都度のアルコール消毒、ラップ使用
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関に花や花壇を設置している。施設の外環が暗い印象である ・出入りはしやすいと思うが、親しみやすいかはわからない ・玄関周りをスロープにしている	○	・玄関の雰囲気改善、装飾やライトアップ、フォーマル面の改善 ・表札や花(春はよく咲いている)を手入れして明るくしたい ・玄関を少し着たいときがあるので、掃除をする
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の行事には飾り付けをして、季節感を味わってもらう。日中にはカーテンを開け、自然光を取り入れ、昼夜の認識を持てるようにしている。リビングにカレンダーを設置し、日時の認識を持てるようにしている ・邪魔のないようシンプルかつ季節の飾り付けをするようにしている ・季節によってリビングの飾りをかえている	○	・季節ごとに利用者と共同で季節感のある作品の創作 ・リビングを明るい雰囲気にする
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファを設置したり、たたみがあるが、利用者の自発的な利用にいたっていない ・居室やリビングで過ごされている。あちこちに椅子もありそういったところでつるぐこともある ・リビングに机、椅子、ソファを置いてすきな場所に行ってもらっている	○	・フロアの空間作り、関係悪化の際に一人になれるようなスペースの設置や活用

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・思い出のものや仏壇、写真等を居室に置き、生活している ・その人らしい居室ができていると思う。全てが思い通りかはわからないが相談してできていると思う ・昔から愛用されている品物や写真などを貼っている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・入所前の部屋の観察やそれに似せた雰囲気づくり ・以前生活されていたような環境作りを心がけていきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に換気、ロスナイを稼働させ、換気を行っている。また加湿器を設置し、湿度を保つようにしている。利用者が居室利用していないときは窓を開け、換気を行っている ・加湿や除湿に注意はしている。冬は乾燥しやすいので、水分をとってもらったりしている ・居室換気や温度調節をこまめに行っている。加湿器を使用している 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・空気清浄機の購入。時々、排泄物のにおいがフロアにこもっていることがあるため、浴室やトイレ使用時のドアを閉めることを徹底 ・利用者の体調を見ながら、温度調整を行いたい
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下やフロアには、極力障害物のないようにし、建物は段差のない設計となっている ・手すりは廊下などにもあり、床も歩きやすいようにはできていると思う。居室にも手すりはある ・バリアフリーで手すりがついている 		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・できるところはしてもらい、手伝うときはそつと手伝う。まずはできるかを見極めることが大切。その方に合わせて無理のないように ・居室扉のところに表札をつけている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の自力心を傷つけることのないように本人が自分で行える環境をつくる
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上には活動できる場所があり、夏には、花火やレクリエーションを行っている。玄関に花壇を置き、利用者が水遣りをするができるなど園芸を楽しむことができる ・ベランダは花を置いたり、自分のペースとして活用されている人もいる ・一階ベランダ前花壇があり、外に出て花をみて楽しんでもらっている 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇を少し整えていきたい

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目 (2Fユニット)			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0 2 1 0	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	2 1 0 0	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	2 1 0 0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0 8 0 0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	3 0 0 0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	0 1 2 0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	0 3 0 0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 1 1 0	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	0 1 1 1	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	大いに増えている
		2	少しずつ増えている
		1	あまり増えていない
		0	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	0	ほぼ全ての職員が
		2	職員の2/3くらいが
		1	職員の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
		0	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての家族等が
		0	家族等の2/3くらいが
		3	家族等の1/3くらいが
		0	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)